

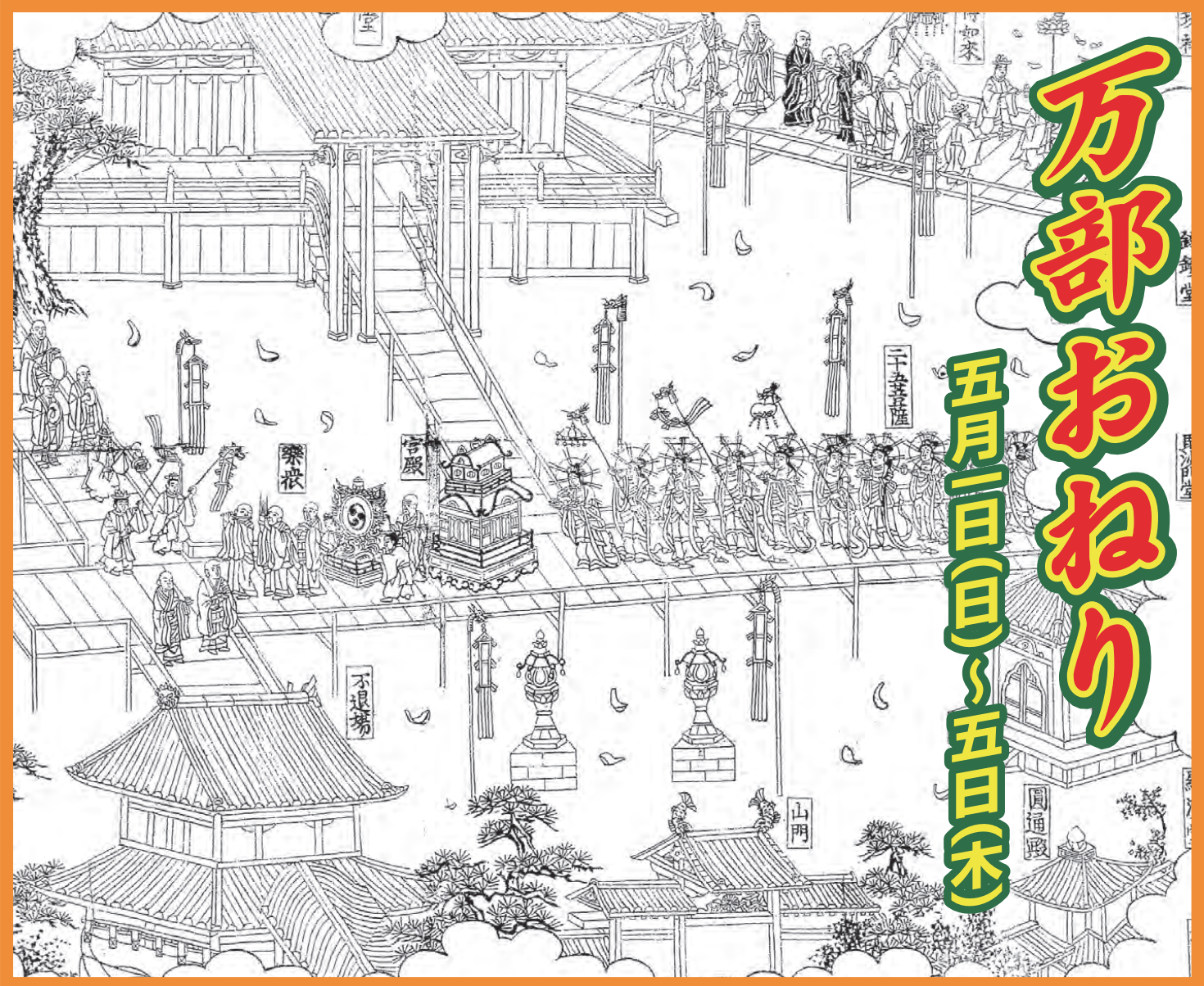
# 大念佛



No.75  
発行/融通念佛宗  
総本山 大念佛寺  
大阪市平野区平野上町1-7-26  
TEL.06-6791-0026

題字：融通念佛宗 管長 倍巖良舜

江戸時代のおねりの様子



## 万部おねり

五月二日(日)〜五日(木)

「万部おねり」は「二十五菩薩聖聚来迎会」と「阿弥陀経万部会」が融合した大念佛寺最大の伝統行事です。

平安時代の中頃、人々の間には極楽浄土に往生したいという願望が強く、「人の命が終わるとき、阿弥陀仏が諸菩薩を従えて極楽浄土へと迎えに来てくださる」という臨終往生の有様を描いた来迎図が多く描かれました。さらにそれは菩薩の面や衣装を身につけて往生の実体験を試みる法要までに発展しました。これが「聖聚来迎会」です。

大念佛寺における「聖聚来迎会」の起源は、中興の第七世法明上人までさかのぼります。上人最晩年の貞和五年（一三四九）當麻寺の練供養をうつして、極楽浄土の仏様の世界を人々に見せてあげたいと思い、自ら行者となって二十五菩薩による来迎の儀式を始めたことによります。

また江戸時代の明和六年（一七六九）、第四十九世堯海上人のとき、阿弥陀経を一万部読誦して檀信徒と有縁無縁諸霊の追善回向をするようになり、こうして現在の「万部おねり」として親しまれるようになりました。

菩薩おねりの先頭は大慈悲心をもってどんな災難からも衆生を救済するという「観世音菩薩」です。紫金の蓮台を両手にもち中腰の姿勢で現れます。二番目には衆生に菩提心をおこさせ、智慧をつかさどる「勢至菩薩」が中腰の合掌の姿勢で続きます。そして二十五番目の菩薩まで雅楽の音のもと荘厳な聖聚来迎が目当たりに繰り広げられます。

期間中様々な行事やイベントもあり、お越し頂いてよき仏縁を結ばれますようお願い申し上げます。



# 後代に残る栄誉 紫金職



山崎 良崇 師



紫金職就退任式の様子

紫金職とは、現存の宗内僧侶の中で、僧籍簿に登録されて以来の年数（これを法賜という）が最も古く教師補任後、住職を二十年以上勤めた者の中から選ばれます。昭和四十年代までは終身制となっていました。その後改正され、今は一年ごとに交替するようになりました。

紫金職は宗門で最も荣誉ある役職であり、退職後は前紫金職として、後代までもその荣誉が



昨年度万部おねり渡御の様子

讃えられます。

紫金職は元祖良忍上人、中祖法明上人、再興大通上人の祥月御命日の法要と、万部会の大法要において調声といつて、法要に出仕僧の中心となり、各法要の前座導師の大役を担います。

紫金職という名の由来は、紫

衣・金襴袈裟の着用を許された者という意味です。僧侶の法衣の色として紫衣が最も尊ばれ、江戸時代より明治十七年まで、紫衣は朝廷から賜った者しか着用が許されませんでした。因みに本宗では元禄九年（一六九六）、大通上人が東山天皇から勅命によりこれを賜ったことが最初です。

永年、封建制度の中で仏教の国教化により、住職の任免、教師の等級進退等すべて国家の管掌のもとに行われてきたものが、明治新政府は、宗教政策によってそれを廃し、一宗に管長を置き、僧侶の管掌を委ねました。各宗団は独自の宗制によって運営されるようになったのです。

本宗では明治四十一年制定の宗制寺法は再三改正が施され、法衣の色も現行では教師以上の僧侶には紫衣着用が認められ、高位の僧階保有者には緋衣が許されるに至りました。しかし絵本山での法要では、緋衣は管長と紫金職のみとし、出仕の大衆は紫衣という内規に則っています。さらに紫金職が着用する金襴袈裟は紫地に金襴模様とし、他と区別されています。

紫金職を勤めあげるには、健康状態の他に寺族、檀信徒をはじめ、近隣寺院の理解と協力が不可欠です。今年度補任された山崎良崇師はそれらの条件を満たすことで、偏に仏縁のしからしむる所というべきでありましよう。



菩薩伝供の様子



光明王菩薩

# 二十五菩薩 練り供養

二十五	無辺身菩薩	香炉
二十四	大威徳王菩薩	供華
二十三	白象王菩薩	寶幢
二十二	自在王菩薩	華幢
二十一	三昧王菩薩	華鬘
二十	定自在王菩薩	太鼓
十九	月光王菩薩	振鼓
十八	日照王菩薩	羯鼓
十七	衆宝王菩薩	銅鑼
十六	陀羅尼菩薩	鳳簫
十五	光明王菩薩	琵琶
十四	山海慧菩薩	箏篋
十三	金剛藏菩薩	鈇
十二	法自在菩薩	筆篋
十一	寶藏菩薩	横笛
十	徳蔵菩薩	笙
九	虚空蔵菩薩	腰鼓
八	華嚴王菩薩	鉦鼓
七	獅子吼菩薩	拍子板
六	金蔵菩薩	瑟
五	普賢菩薩	幡蓋
四	葉上菩薩	玉幡
三	薬王菩薩	幢幡
二	勢至菩薩	金剛合掌
一	観世音菩薩	紫蓮台
万部法要二十五菩薩名並び持物		





迦陵頻

我々楽役(楽融会)は、総本山や末寺等の行事に於いて儀式の円滑な進行を促し、人の死を悼み、ご家族やご親族のお心を慰めし、さらに儀式の莊厳を目的とし、鋭意奏楽させて頂いております。特筆すべきは総本山大念佛寺直属の雅楽団体であり、その会員全員が融通念佛宗在籍

みやび  
**雅のハーモニ**  
がく  
融会  
ゆう  
五月四日 午前十一時～十二時



真)により万部和讃に振り付けられたものであります。誰にも親しまれ口ずさまれる万部和讃、及び金銀の舞扇の折り返される華麗な渡御は、五月晴れの万部法要に欠かすことのできないものであります。

詠讚とは詠歌・和讃のことで、詠歌は我が国では和歌を詠むこと、または和歌そのものを意味します。和讃は仏教讃歌の一種で七五音の句を連ねることが多く、これに曲節を付して朗唱する形態をとります。詠歌は節もの、和讃は語りものです。詠讚歌は融通教会が永年にわたり引継ぎ、数々の詠歌や和讃が「魚山流詠讚歌」

いさよ  
りゅう  
**魚山流**  
えい  
せん  
**詠讚歌舞奉納**  
五月一日～五日 正午頃  
融通教会



融通念佛宗聖歌隊は、大阪芸術大学通信教育学部講師の河田早紀先生と、ピアニストの高木もつ先生の理解を深めて歌うことを学び、また高木先生には女性コーラスの三つのパートを歌いやすく丁寧に指導いただいております。お二人の先生のご指導を楽しみに、月二回会員が集い練習に励み、毎年の万部法要に仏教讃歌を奉納いたしております。日常は忙しい生活の中で忘れていたものを歌の中から感じて温かい気持ちになっていただけよう、本年も聖歌隊員一同一生懸命に心をこめて歌い奉納させていただきます。

**仏教讃歌奉納**  
融通念佛宗聖歌隊  
五月三日 午前十時三十分～十一時  
五月四日 午前十時～十一時

の僧侶である(他に類を見ない)ということ。お陰様で毎回満堂の参詣者を魅了し好評を博しております演奏会ですが、今回で十五回目を迎えます。その演奏曲目は、  
第一部【管絃】平調音取・越天楽(残楽三返)  
第二部【舞楽】振鉾・迦陵頻・延喜楽です。  
万部おねりのひと時に、雅な平安の調べに浸って頂き、皆様方のお心が少しでも癒されれば幸甚に存じます。

みんなの願いを「ぼさつさま」に届けよう!  
ぼさつさまぬりえ  
毎年好評を頂いております「ぼさつさまぬりえ」は今年で記念すべき十回目になります。今年も練供養で二十四番目に出現される悪を制する大威の勢いと善を守る大徳の功を衆生に施す「大威徳王菩薩」です。今年も万部法要期間中、無料休憩所において展示いたします。法要終了後には青年会僧侶によ



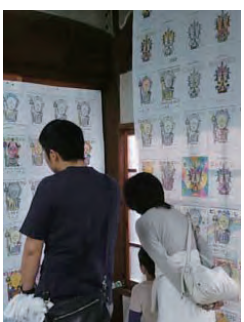
中村 愛さん  
今回は更に声楽家で天使の声とも言われる人気の高い森阿紀子さんにもお越し頂き、ハーブと声楽と声明の三者コラボを実現したいと考えています。ハーブでは「ビルマのたて琴」等を、声楽では「アメイジンググレイス」等を、また懐かしい日本の童謡等も聞かせていただきます。声明では「後唄」「無常偈」でのコラボを予定しています。どうぞお見逃しなく。

今回の融通声明研究会の取り組みは以前よりコラボを考えていたハーブです。声明は仏の讃歌とはいえ、何より人の心を癒せられると信じます。ハーブもまたオルゴールの音色にも似て、生きとし生けるものの病んだ心を癒します。今、日本で大人気のハーブ奏者、中村愛さんを招くことが出来ました。

**融通声明コンサート**  
融通声明とハーブ、声楽のコラボレーション  
五月三日 午前十一時～十二時  
融通声明研究会



森 阿紀子さん





# 平成28年 万部法要 日程・時間表

日程 時間	5月1日(日)	5月2日(月)	5月3日(火) 憲法記念日	5月4日(水) みどりの日	5月5日(木) こどもの日
6時30分	半斎勤行	半斎勤行	半斎勤行	半斎勤行	半斎勤行
9時30分	おつとめ 阿弥陀経 読誦	おつとめ 阿弥陀経 読誦	おつとめ 阿弥陀経 読誦	おつとめ 阿弥陀経 読誦	おつとめ 阿弥陀経 読誦
10時				仏教讃歌奉納	
10時30分		大念佛寺奉賛会 祈願法要	仏教讃歌奉納		
11時			融通声明 コンサート	雅のハーモニー	世界平和祈願 護摩供養
11時30分	八島念佛講	安堵念仏講			
12時	魚山流詠讃歌舞	魚山流詠讃歌舞	魚山流詠讃歌舞	魚山流詠讃歌舞	魚山流詠讃歌舞
12時30分	布教	布教	布教	布教	布教
1時	宗務総長 挨拶 お稚児・詠讃歌舞 禪門講・諸講元 お渡り	お稚児・詠讃歌舞 禪門講・諸講元 お渡り	宗務総長 挨拶 お稚児・詠讃歌舞 禪門講・諸講元 お渡り	お稚児・詠讃歌舞 禪門講・諸講元 お渡り	宗務総長 挨拶 お稚児・詠讃歌舞 禪門講・諸講元 お渡り
2時	二十五菩薩練供養 入御 万部興 渡御 菩薩 伝供 阿弥陀経 読誦 供養衆 万部結縁回向 阿弥陀経 読誦 管長祝下 内外十念	二十五菩薩練供養 入御 万部興 渡御 菩薩 伝供 阿弥陀経 読誦 供養衆 万部結縁回向 阿弥陀経 読誦 管長祝下 内外十念	二十五菩薩練供養 入御 万部興 渡御 菩薩 伝供 阿弥陀経 読誦 供養衆 万部結縁回向 阿弥陀経 読誦 管長祝下 内外十念	二十五菩薩練供養 入御 万部興 渡御 菩薩 伝供 阿弥陀経 読誦 供養衆 万部結縁回向 阿弥陀経 読誦 管長祝下 内外十念	二十五菩薩練供養 入御 万部興 渡御 菩薩 伝供 阿弥陀経 読誦 供養衆 万部結縁回向 阿弥陀経 読誦 管長祝下 内外十念
3時	二十五菩薩練供養 還御	二十五菩薩練供養 還御	二十五菩薩練供養 還御	二十五菩薩練供養 還御	二十五菩薩練供養 還御
3時30分					

※各種奉納行事の内容・時間については、変更する場合がございます。

○万部法要中は駐車場がございませんので、公共交通機関をご利用下さい。

## 別時念仏会のご案内

主催 融通念佛宗別時念仏の会

日時 平成二十八年五月二十一日(土)  
午後一時半より三時まで

場所 総本山大念佛寺 瑞祥閣

内容 法話 念仏会



## 「夏休み一子ども修行体験」のご案内

主催 融通念佛宗別時念仏の会

開校案内 平成二十八年七月二十二日(金) 十二時開校  
七月二十三日(土) 十六時解散

集合受付 総本山大念佛寺 本堂正面 縁側



修行道場 岩湧寺 大阪府河内長野市加賀田三八二四

\*集合場所よりマイクロバスで修行道場へ移動いたします。

(移動時間約四十分)

参加費 七、五〇〇円(保険料五〇〇円を含む)

対象学年 小学校一年・中学校三年

内容 念仏修行、写経、仏教のお話、作務(お掃除)、自然散策、その他

詳しい持ち物、行程は申し込み者に後日郵送いたします。

お問い合わせ 西方寺 安岡良剛

電話 〇七二・三三二・二九八二

詳しくはホームページをご参照ください  
HP <http://www.kodomotaken.webcrow.jp/index.html>

## お稚児さん募集

たくさんのお参りの方に身守られ、ほとけさまを身近に感じられる素晴らしい渡御となることでしょう。「菩薩様との記念撮影」も大変貴重な経験となります。

是非ご参加ください。

日程 五月一日〜五日 雨天決行

費用 お一人 五千円(一日)

※白足袋か白靴下を御用意ください。

申し込み 大念佛寺寺務所まで  
電話 〇六一六七九一〇〇二六

※当日の申し込みは午前十一時まで受け付けております。

●JR和路線「平野」から南へ歩いて5分  
●大阪市バス「9」34「JR平野駅」近鉄バス「平野元町6丁目」下車すぐ  
●地下鉄谷町線「平野」102出口から北へ歩いて8分

大阪市平野区平野上町1-7-26  
電話 (06) 6791-0026



## 勧進のご案内

### 塔婆回向

本堂にて受付(十時から十五時まで)

○万部中常回向(五日間) 五千元

※万部終了後であっても五日間回向致します。

### 各種勧進

- 当日回向 (一日) 三千元
- 巻線香(御本尊用) 五百円
- 本堂正面用口ウソク 二千元
- 脇壇用口ウソク 一千元
- 本堂大屋根 瓦勧進 二千元

### 万部結縁回向

万部興に納めた万部経に霊名を記し、管長祝下によって永代に渡って回向されます。

伝統あるこの法会に、よきご縁を結んでいただきました。お勧め申し上げます。

永代回向料 一霊 一〇万円

申込受付(本堂 売店・寺務所)



## 小径

「小径」という編集後記を載せることになりました。

小径は「こみち」という意味です。

人はそれぞれ小さな道を歩んでいます。こわごわ進んでみたり、寄り道をしたり。迷ってしまうこともあるでしょう。でもいつか大きな道にきつとつながるだろうと希望をもって歩んでいくはずですよ。

私は編集委員になって十年近くになります。檀信徒の皆様が読んでいただくのに、これで内容はいいのかな、マンネリになっていないかな、ちょっと難しくはないかと毎回迷い悩みます。

この「大念佛」の新聞を読んでいたって、何かありましたら是非お声を寄せて下さい。広報誌として「融通念佛宗」を檀信徒の皆様だけでなく広く知っていただくために、よりよい紙面にしたいと思っています。

この「小径」というコーナーは編集委員全員が持ち回りで、自由な内容で執筆することになっています。これも楽しみにして下さい。

喜法